

本事例の基礎データ

カテゴリ	情報モラルを育成する指導方法		
学校種	中学校	事例提供者	江戸川区立小岩第五中学校
学年	3 学年	教科等	特別の教科 道徳
単元（題材）名	自分と相手との違い【A(2)節度、節制】		
主な ICT 機器	パソコン、プロジェクター		
ワンポイント	SNS 東京ノートを活用した情報モラル教育		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報モラル	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする ・ 情報や情報技術を、よりよい生活や持続可能な社会づくりに生かそうとする

本事例における教育の情報化について

【ポイント 1】	● 情報の共有を図るためのプロジェクター活用
【ポイント 2】	● SNS 東京ノートを通して、グループ学習の充実を図る。

本単元（題材）における指導の流れ

時間	● 主な学習活動 ・ 生徒の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
1 5 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な存在であるスマホについて、身の回りで見られる様子を取り上げて考える。スマホの使い方を考える。 ・ 「歩きスマホ」について考え、意見交換する。スマホの使い方を考える。 ● 言葉や文字を通してのやり取りの中で、人それぞれで受け止め方に違いがあることを理解する。これからどのように使用していくかを考える。 ・ 意見交換から様々な受け止め方があることを知り、今後の生活にどう活かしていきたいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の内容を確認する。 ☆ 発言、ワークシート ○ グループ学習での意見交換を通して様々な受け止め方に違いがあることに気付くことができたか。 今後、どのように利用していくことが良いかを考えることができたか。 ☆ ワークシート

本時の流れ

段階	● 主な学習活動 ・ 生徒の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前の道徳授業の振り返りや日常生活の習慣から、ケータイ・スマホ等とのかわり方を確認する。【ポイント1】 ・「歩きスマホを規制する法律は必要か？」アンケートの集計結果を確認する。 ・「スマホ依存度チェックシート」の各項目について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的な価値項目に照らし合わせる。 ☆ 授業観察 ○ 授業の振り返りを行いながら、本時につなげていく。 ○ 「スマホ依存度チェックシート」をプロジェクターで映し出し、診断結果を共有する。
自分と相手との違い		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS東京ノートを用いて相手との違いを確認する。【ポイント2】 ① 言われたら「いやだな」と感じる言葉を各々で選び、その理由を班で発表する。 ② ①で見た言葉の順位とその理由を考える。 ● 『小岩五中“SNS利用上のルール9か条”』を守れているか確認する。 ・ ルールを1つずつ確認する。 ・ ルールの必要性について考える。 ・ ルールを守るために必要なことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SNSトラブルが起きないようにするために自分と相手の「相手にされて嫌なこと」の違いを理解させる。 ☆ ワークシート ○ ①②を通して自分と他者との感じ方の違いを確認させる。 ○ 『小岩五中“SNS利用上のルール9か条”』を守るためにはどうすればよいかを考えさせる。 ○ 学校で定めたSNS利用上のルールを確認させる。ルールを守れているかを考えさせるとともにルールの必要性と守るために必要なことを考えさせる。 ☆ 授業観察
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● ケータイ・スマホ、SNSなどと、どのように付き合っていくべきかを考える。 ・ ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ケータイ・スマホ、SNSの利点も含めて改めて考えさせる。 ☆ ワークシート 【学びに向かう力・人間性等】 ○ 道徳的価値を伝えることで、授業のねらいをおさえる。

授業の実際

【ポイント1】 ● プロジェクターによる情報共有



○ プロジェクター

- ・「歩きスマホを規制する法律は必要か？」アンケートの集計結果
- ・『スマホ依存チェック』の提示

【ポイント2】 ● SNS東京ノートの活用



○ SNS東京ノート

- ・ SNS 東京ノートの各発問とカード教材をプロジェクターで映し、問題提起する。
- ・ グループ学習で、様々な価値観に触れる。

今後に向けて

- 情報モラル教育を実施していくにあたり、ネットトラブルが他人事ではなく、自分事として認識できるようにするためにはどうしたらよいかを研修していく。
- 小岩高校と連携を図り、Microsoft Teams を活用した『スマホミーティング』を実施した。この経験から、オンラインでどのような取組ができるかを研修していく。